

大黒家 和洋文化講座

ねらい

- 1) 和洋女子大学人文学部日本文学文化学科の教員・学生がその研究・学修の成果を地域の一般市民向けに発信
- 2) 大学の立地する市川市域に密着したかたちで、歴史的・文化的価値を発見、創造
- 3) 地域社会に参画して協働・連携関係を築ける人材を育成
⇒その人材が再び研究・学修成果を市民向けに発信



実施日 令和5年7月8日（土）、7月22日（土）、9月23日（土）

場所 大人の学び舎 大黒家

講座内容

「文学、文化、芸術」を軸に3つの講座を実施

永井荷風も通った歴史ある飲食店の旧店舗
を利用したカルチャーセンター

第1回「第一次国府台合戦を読む」

講師:梅山聡准教授 小野真嗣准教授

市川市域で行われた合戦に取材した軍記物を学生が現代語訳。その冊子を受講者に配布して教員がその歴史的背景を解説。



右図:冊子『相州兵乱記 現代語訳×歴史散歩マップ』。イラストも学生による。

第3回「ストップモーションアニメーションについて」

講師:仁藤潤准教授

アニメ制作を専門とする教員が自身の映像作品を実際に示しつつ、市民からも関心の高いアニメの制作技術について講義。



第2回「市川の詩人宗左近を学生と読む」

講師:学生有志6名

ファシリテーター:小堀洋平准教授

日本文学を学ぶ学生たちが、市川ゆかりの詩人宗左近の代表作『炎える母』の魅力を紹介。生前の詩人を知る受講者からも喜びの声が寄せられた。



★受講者の声

「若い学生さんが宗先生の詩を勉強されたことを嬉しく思いました」「私も勉強になりました」

本講座の継承前講座「和洋文学講座」（令和4年）

本学「文学と芸術を通じた地域社会参画型表現教育プログラム」の一環として実施。

- ①小堀洋平准教授「田山花袋の市川、永井荷風の市川」
- ②佐藤淳一准教授「谷崎潤一郎と永井荷風」
- ③大塚千紗子准教授「『万葉集』真間手児奈伝説と市川」
- ④木村尚志准教授「京と鎌倉を繋ぐ中世の歌人たち」
- ⑤佐藤勝明教授「露伴と芭蕉」
- ⑥吉井美弥子教授「紫式部の謎」
- ⑦間淵洋子准教授「文学の言葉を科学する」
- ⑧学生有志「近現代詩の魅力をさぐる」

★成果:地域の価値発掘、大学と市民の連携構築

★課題:育成人材のさらなる地域貢献への取り組み